

彩の国 EdTech プロジェクト

メンバー：工藤 和真
野村 真耶
青木 奈々

1. 彩の国 EdTech プロジェクトとは

2. アイデア案

- 1 学校と家庭の連絡
- 2 子どもの安全
- 3 学力UP

1.はじめに

子育てをしながら働く事が、当たり前の中になりました。

会社からのサポートがあったとしても、仕事と子育ての両立は大変なのが実情です。何となく小学校にあがれば、子供も手が掛からなくなり、子育ても一段落するのでは？と思われがちですが、実際は、子どもが小学校に上がるタイミングで、仕事の継続が難しくなるという問題があります。

そこで、私達は子供が小学生になっても、「**安心して働きながら子育てをしたい**」という、とてもシンプルな要望を叶える仕組みをICTで実現したいと考え、アプローチを開始しました。

この資料ではアイデアとして、3つ提案させていただきます。

どれも、実際の子育てをしている・終えた、保護者の方から頂いた意見を参考にして考えたものになっています。この提案が、これからの教育環境の課題を考えるきっかけになればと思っております。

アイデアの検討にあたり、実際に子育てをしている、または子育てをしていた方々にヒアリングを実施しました。

ヒアリング結果は次のようになりました。

1.ヒアリングの結果報告

調査対象：子育て世代～子育て終了世代 約30名

調査方法：ヒアリング



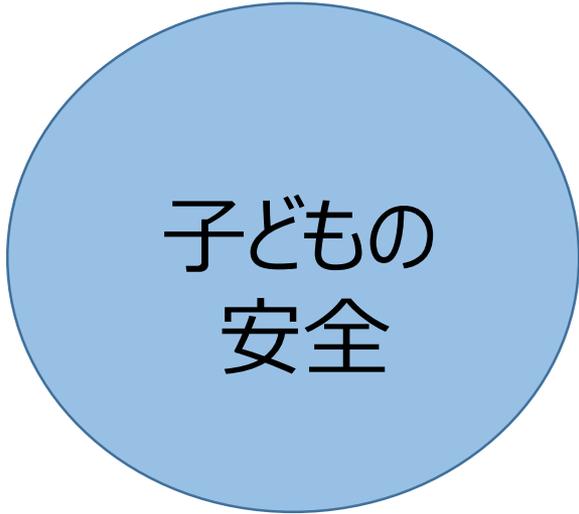
ヒアリングの結果、子育て世代の親が共通してもつ不満は以下のように分類できました。



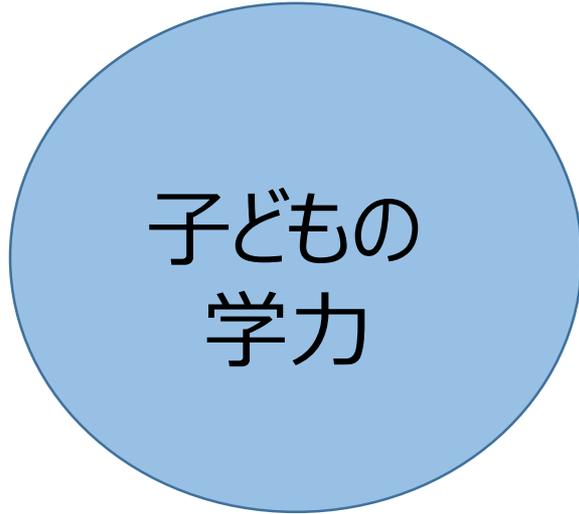
ヒアリングより得られた、3つの分類を基に、
具体的なアイデアを検討しました。



学校と家庭
の連絡



子どもの
安全



子どもの
学力

子どものランドセルから取り出すよりも、手紙を簡単に見ることができるようになりたい

休んで、明日の連絡がわからない

いつ配られた手紙なのかわからない

子どもが手紙をなくしてしまった



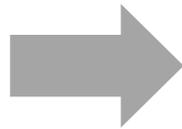
帰宅前に分かれば買ってきたのに・・・

欠席連絡をお友達は届けてくれただろうか

Easy コミュニケーション

簡単に学校の配布物を回覧する

配布物を各家庭に送信



ファイルをアップロードする
※アップロードはワンアクション
(ex.共有フォルダ)

アップロードされたファイルを分別
・クラス別
・男女別
・・・など様々なニーズに対応

スマートフォンのプッシュ通知が届く
アプリを起動し、ファイルを確認

2. アイデア案 <1. 学校と家庭の連絡>

<ターゲット>

共働き（シングル）保護者

<ビジョン>

（多忙な保護者が）学校からの連絡事項をスマホで簡単に閲覧したい。（ランドセルから出すよりも簡単に！）

<内容>

- 学校からのお知らせや、プリントをインターネットを通じて保護者に直接届ける。
- 子どもの連絡帳を介することによる、情報の不確実さと情報鮮度の低下を防ぐ。

2. アイデア案 <1. 学校と家庭の連絡>

<方法>

スマートフォンアプリとして保護者向けシステムを提供する

- ユーザID・パスワードを利用したログインは行わない（Webアプリとの差別化）
- プッシュ通知機能を利用し、情報を直接保護者に届ける
- 閲覧確認済みかどうかをシステム側で判定できる機能を設ける

<メリット>

- スマートフォンアプリを使用することで保護者の利便性が向上する
- プッシュ通知により、確実に情報を保護者まで届けることができる。
- 学校側が重要なお知らせを保護者が閲覧したかどうかを確認することができる

子どもの様子がわからないから不安
学校での子どもの様子がもっと知りたい

授業に集中できているか

登校中に事故に
あっていないか

友達とけんかして
いないか



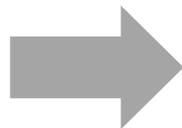
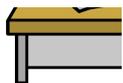
授業中、周りに迷惑
をかけていないか

いじめられていないか

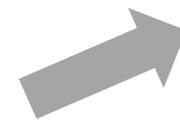
Easy Open Class

いつでも授業参観に参加しているように子どもの様子がわかる

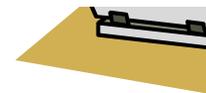
授業の様子を撮影



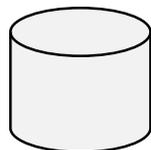
授業態度を分析、データ化
分析レポートを作成



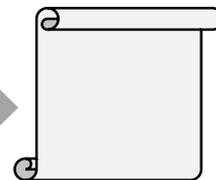
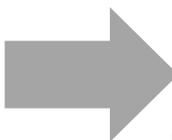
分析レポートを確認



映像データは
分析後、破棄



映像データ



分析レポート

映像データを文章データに変換

保護者

教員

2.アイデア案 <2.子どもの安全>

<ターゲット>

共働き（シングル）家庭/教職員

<ビジョン>

学校での子どもの様子を毎日知りたい

<内容>

- 学校での子どもの様子を客観的に知ることができる
- 学校側の子どもへの対応を知ることができる

2.アイデア案 <2.子どもの安全>

<方法>

授業の様子を録画し、映像データをAIによって、分析する。分析結果を基に、レポートを作成し、保護者、教育機関に提供する。

- プライバシー保護の観点から、AIによる分析後は、映像データを破棄

<メリット>

- 子どもの授業態度を毎日確認することで、学習理解度や体調管理などに役立つ
- 授業の様子を正確に知ることで、子どもに授業を受けるアドバイスや、学校側に授業方法を意見できる
- 家庭と学校が連携して、早期に子どものトラブルを把握・解決することに役立つ
- 授業の様子を客観的に評価できるため、教職員にとって、授業の工夫度を計る尺度になる。

自発的に勉強してほしい
留守番している間に勉強しているのか不安



スタディ メジャー

子どもの学習量を正確に記録し、視覚化することで勉強のモチベーションを維持する

キャップ
距離を測定できるセンサ付



詳細な分析結果を提供



ノートに書いた距離を計測、データを蓄積。学習時刻などのデータと合わせて、AIを利用した分析を行う



保護者

児童

学習量が分かりやすく、モチベーションが高まるレポートを提供

<ターゲット>

5歳～9歳ぐらい

(文字や絵を描き始めるころ～考える学習に切り替わるころまで)

<ビジョン>

(幼いときから) 学習に積極的になってほしい

<内容>

- 文字を書いた距離による、学習記録を付けることで、達成感を感じ、学習習慣が身に着ける

学習量の計測は一般的に“学習時間”であることが多いが、時計が読めない幼い子供の場合、計測は難しい。文字を書いた距離は記録が簡単で、意識することなく、自然に学習量を計測できる。

- 幼いときから学習に達成感を感じられるような仕組みを提供する。

たとえば、ゲームの経験値のような、幼い子どもでもなじみのある指標に変換し、ゲーム画面のような親しみのあるUIで学習量を参照できるシステムを提供する

- その他センサーを用いて、様々なデータを取得できる。

学習時刻や学習場所など、距離以外にも情報を収集できる

<方法>

IOT機器を利用し、ノートに書いた文字の距離を計測。同時に様々な環境データも記録する。記録したデータを基に、学習量の分析と学習記録を作成する。

学習記録を子どもへ、学習量の分析結果を保護者（教育機関）に提供する。

- IOT機器例 : 鉛筆のキャップ型の距離センサー
その他センサー例（時刻、位置情報機能、騒音計など）
- 子ども向け補足 : ゲームアプリのような親しみやすいものを想定
- 保護者向け補足 : 学習時刻や学習場所など、距離以外のデータを用いて
学習の集中力や効率性などを分析し、教育に活かせる情報を提供する

<メリット>

- 子どもが楽しみながら学習できる機会を提供することで、子どもの学習習慣を身に付けることを助ける。
- 学習量の分析結果を様々なことに利用できる

今回は、ヒアリング結果を基に、
「**安心して働きながら子育てをできる**」環境づくりを実現する為の
アイデア案を3つ紹介いたしました。

どれもアイデアとしては稚拙な部分があったかと思いますが、
ヒアリングで得られた、保護者の抱える不満や意見は本物です。
今回のアイデア発表を通して、これらの意見に真剣に向き合うきっかけになれば
幸いです。

以上、お読み頂き、ありがとうございました。